

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

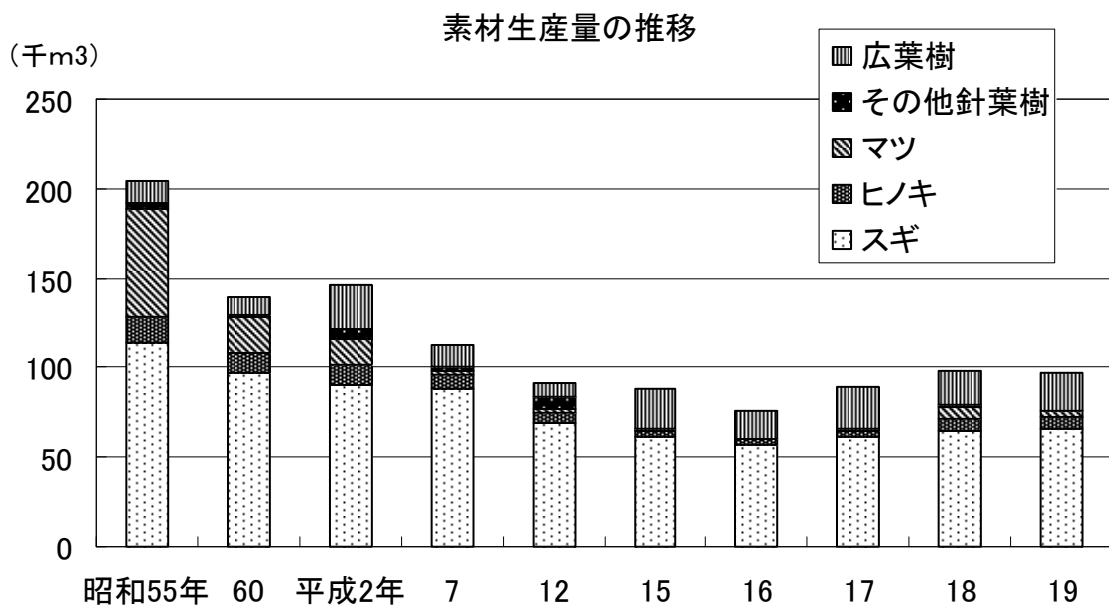
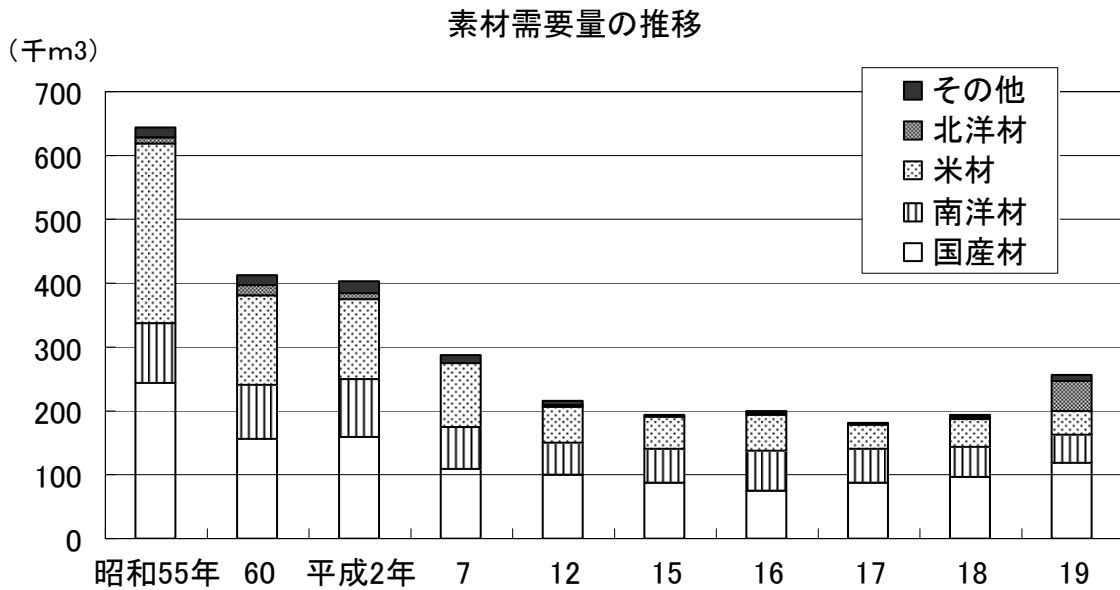
平成19年の素材需要量は前年より61千 m^3 増加し255千 m^3 であった。このうち国産材は120千 m^3 、外材は135千 m^3 であった。

外材のうち、36%が北洋材であり、30%が南洋材、29%が米材である。

県内素材生産量は、前年より1千 m^3 減少し97千 m^3 で、樹種別でスギ66千 m^3 、ヒノキ6千 m^3 、マツ4千 m^3 、その他針葉樹なし、広葉樹が21千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林は前年より1千 m^3 増加し2千 m^3 、公有林は前年より1千 m^3 増加し2千 m^3 、私有林は前年より3千 m^3 減少し、93千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は98千 m^3 、製材品生産量は70千 m^3 となっている。



(2) 木材価格

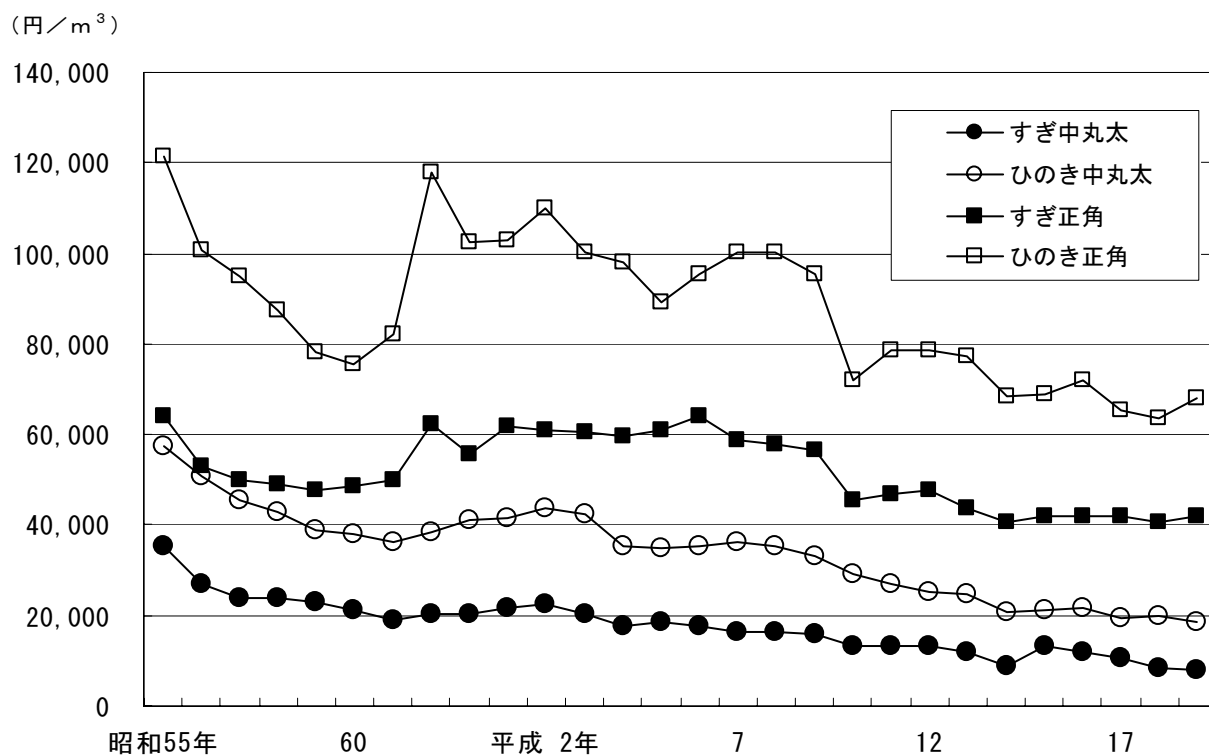
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下傾向にある。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

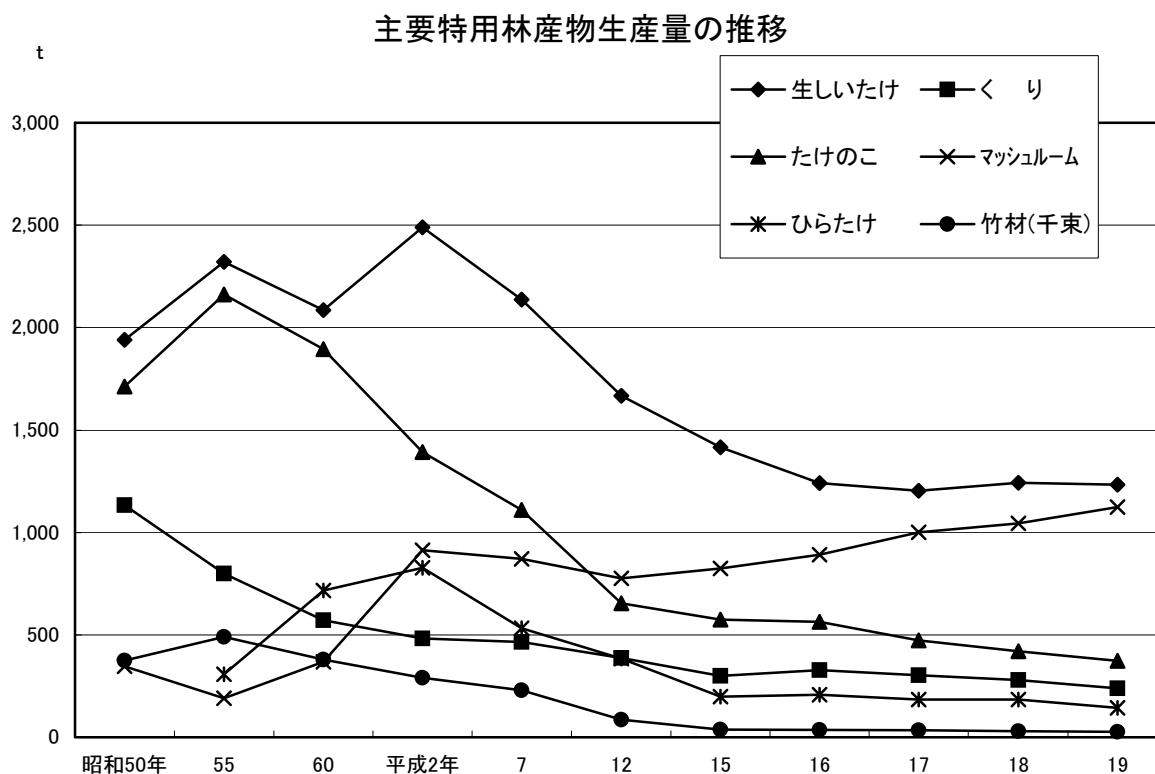
平成19年の素材の平均価格は、スギ中丸太が7,792円/m³で前年から615円、ヒノキ中丸太が18,333円/m³で前年から1,667円下落している。

製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が41,750円/m³で前年から1,250円、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が68,000円/m³で4,583円上昇している。

木材価格の推移



(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは原木栽培から自家菌床栽培への切り替えが進んでいるところであるが、前年比1%減の1,233tの生産となった。地域別では千葉が318tと最も多く、次いで夷隅・君津・長生の順となっている。

マッシュルームは海匝・香取地域において、対前年比7%増の1,125t生産されている。ヒラタケは、対前年比22%減の143tとなっている。

タケノコは生産者の減少、不作及び獣害により前年比11%減の373tの生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く243t、次いで安房・長生の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比14%減の239tとなった。

竹類では対前年比10%減の26千束となっている。